

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0572207827
法人名	有限会社 湯の里
事業所名	グループホーム 湯の里
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢199-70 (電話)0185-83-5008
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成21年12月16日

【情報提供票より】(平成21年10月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤16人, 非常勤 人, 常勤換算14.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 ~ 22,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(10月18日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名	
要介護1	3名	要介護2		8名		
要介護3	6名	要介護4		0名		
要介護5	1名	要支援2		0名		
年齢	平均	85.6歳	最低	66歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森岳温泉病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな温泉地にあり、ホームにも温泉が引かれている。利用者は毎日入浴を楽しみにしており、肌につやを感じるほど健康な良い表情をしている。四季折々の楽しみもあり、山菜取りや畑作り、柿もぎや栗ひろいなど、意欲的に体を動かす機会に恵まれている。同法人の地域密着型サービス事業所が複数あり、毎年事業所持ち回りで運動会やカラオケ大会を行っている。家族や地域住民、ボランティアが参加し、地域を巻き込んだ行事として定着しつつある。利用者も、地域の方々と競技(縄ない競争や宝探しなど)や食事を通じて交流することが大きな楽しみの1つとなっている。また、事業所は家族会を立ち上げたり、家族などが意見や不満、苦情を安心して出せるように町の福祉課や家族代表も相談窓口とするなど、サービスの質の確保に向け熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	要改善点については、同法人の事業所合同での管理者会議で報告・検討された後に事業所内の職員会議で検討し、改善に向けた取り組みを行っている。前回調査時の要改善事項については全て改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は項目順に全職員で時間をかけて評価し、取りまとめている。管理者、職員は自己評価、外部評価に関心があり、一つ一つの項目を評価することを、自らのサービスを見直す良い機会として捉えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者代表、家族、地域住民代表、地域包括支援センター、町担当職員が参加し6月に1回実施している。行事や利用状況、活動状況を報告しているほか、参加者からも活発な意見や要望が出され、事業所のサービス向上に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会や意見箱を設けている他、不満や苦情の受付窓口を秋田県国民健康保険団体連合会、三種町福祉課、家族代表の連絡先とし、出された苦情に対しては苦情改善会議を開催して改善に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム周辺は温泉街の分譲住宅地であり自治会は実質機能していない。地元小学校の行事に招待されたり、町民祭りや森岳温泉祭りには利用者全員が参加している。毎年、同法人の地域密着型サービス事業所が持ち回りでカラオケ大会、運動会を実施しており、家族・地域住民・ボランティアなど、地域住民を巻き込んだ交流の場となっている。

2. 調 査 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域密着型サービスとしての役割 を目指した企業理念を作り上げている。また、事 業所では企業理念を基本としながら独自に目標を 作り、職員が常に意識して取り組めるようホーム 内に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有 し、理念の実践に向けて日々取り組んで いる	毎月、運営者と管理者は会議の中で理念を確認し 合っている。職員はミーティング時に確認の機会 を持ったり、朝・昼の申し送り時や休憩時に具体 的なケアについて新任職員へアドバイスをするな ど、意識の統一を図っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地元小学校の行事に招待されたり、町民祭りや 森岳温泉祭り（夏・冬）には利用者全員が参加 している。事業所が毎年行うタンポ会や法人合 同の運動会、カラオケ大会などにも地域住民、 ボランティアなどが参加し、活発な交流が行わ れている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	外部評価の結果は法人合同の管理者会議で報告・ 検討された後に、事業所の職員全員で改善向け て取り組んでいる。また、今回の自己評価は全職 員で時間をかけて実施し、取りまとめた。職員 は、自己評価を一つ一つチェックしていくこと を、自らのサービスを見直す良い機会として捉え ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者代表、家族、地域住民代表、地域包括支援センター、町担当者が参加し6月に1回実施している。事業所からは行事や利用状況、活動状況を報告しているほか、参加者からも活発な意見や要望が出されており、それらをサービスの向上に反映させている。</p>		<p>運営推進会議で出された意見・要望が実際のサービスに反映された例もある。会議をサービスの改善・向上につなげる機会として捉え、議題やテーマを検討しながら回数を増やしていくことも期待されます。また、「家族会」の役割についても、併せて検討していくことが期待されます。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町担当者とは直接意見交換できる関係を構築している。町主催の研修会や近所に来た時に立ち寄るなど、話し合う機会がありホームの詳細を理解してくれている。</p>		
<p>4.理念を实践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の殆どが地元の方で、月1回は家族の面会がある。職員異動についてはお便りで知らせている他、新任の職員は面会時等に直接家族に挨拶している。毎月1回、個々の健康状態等を手書きにし、写真を添えて請求書や金銭の出納状況（領収書添付）と共に送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や意見箱を設けている他、不満や苦情の外部の窓口を秋田県国民健康保険団体連合会、三種町福祉課や家族代表としている。出された苦情に対しては苦情改善会議を開催して改善に努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限に抑えられるよう努力している。法人内のグループホームでのレクリエーションや交流が多く、異動職員と利用者が顔見知りの場合もあり、馴染みの関係が出来やすい。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協や町が主催する研修のほか、講師を招いての法人内研修（インフルエンザ、料理講習、ヒヤリハット）など、全職員が段階に応じた研修や希望に沿った研修を受講できる機会を設けている。研修後は報告書を回覧し、全職員が共有できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代・山本地域のグループホーム協議会に加入し、運営者、管理者、職員がそれぞれ合同勉強会をしたり、お互いの行事（運動会など）に招待するなど、同業者との交流の機会を持っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気やスタッフに徐々に馴染めるようになってからサービス利用を開始している。ほとんどが地元の方なので、共通の習慣や話題も多く、比較的馴染みやすい環境にある。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者それぞれが衣類のほころびを直したり、雑巾を縫ったり、手際よく八タ八タの下ごしらえをするなど、得意な分野で力を発揮しており、職員と協働しながら共に暮らしている。職員は、利用者の小さな変化にも喜びを感じ、利用者から感謝されることにも感謝の気持ちを持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前の聞き取りには十分時間をかけているが、共に生活してはじめて見えてくることもあり、本人の状況を見ながら意向の把握に努めている。行ってみたい思い出の場所や会ってみたい人がいれば、事前に確認しながら希望に応えている。意向の把握が困難な方には文字を用いたり、表情から読み取るようにしている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント表に利用者や家族の意見、要望を明示し、それを基に本人の状況を把握しながら職員全員で話し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状態に変化が生じた場合は、本人・家族・関係者による話し合いを持ち、現状に即した介護計画を作成している。毎月の職員会議では、状況に変化がなくても担当職員が利用者一人ひとりの状況を報告し、職員全員で情報の共有や意見交換を行っている。</p>		<p>計画の見直しの際、本人や家族の希望・意向は確認しているが、記録（介護計画書）の中にそのことが表れていないケースが見られた。第三者が見ても確認できるよう、記録の取り方等について検討されるよう期待します。</p>
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人からの希望があれば通院や外出（自宅や知人宅）など、利用者の要望に応じた外出支援を行っている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の向いに協力医療機関があるが、利用者全員が入居前からのかかりつけ医を希望しており、事業所も通院支援を行っている。また、山本組合総合病院の訪問看護サービスを利用して、かかりつけ医との医療連携もスムーズに行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を定め、事前に利用者や家族に説明している。終末期までは対応していないが、重度化してもできる限りホームで対応することとし、家族の意向を尊重しながら医療との連携を図っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所内の目立つ場所に「職員の心構え」「自尊心をきずつけないコミュニケーションのとり方」を掲示し、日常的に確認しながら、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。個人情報の取り扱いについては全ての職員から誓約書を取り、秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いに添った支援ができるように努めている。職員は、利用者が繰り返す同じ話を笑顔でうなずきながら傾聴しており、その人の尊厳を大事にしていることが伺えた。また、利用者ができることは極力自分で行ってもらうよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者に希望を聞きながら、職員が1週間ずつ交代で立てている。食材購入は希望する利用者と一緒に出かけ、調理も利用者個々の力を活かせるような場面づくりに努めている。食事中も会話が絶えず、食後すぐ席を立つことなくお茶のおかわりを勧めたりと、利用者はゆっくりと団樂し食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、温泉が引かれた浴槽から坪庭を眺めながら入浴することを楽しみにしている。職員は入浴の順番など、利用者一人ひとりの好みや希望に合わせた支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	秋には柿や栗の収穫に出かけ、利用者の楽しみとなっている。山菜の処理、柿の渋抜き、干し柿づくりなどを率先して行っているほか、畑作り、食事準備、裁縫(雑巾・パッチワーク)などが利用者の日々の張り合いや喜びとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人が希望する外出の他、散歩、町の行事や学校行事、文化会館での催し物(日本舞踊・歌・ギター・紙芝居)へ参加するなど、なるべく外に出ることを心がけている。その際は、外出が同じ利用者に偏らないように配慮しながら支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	リビングルームと玄関が直結し、リビングからテラス、中庭へといつでも出られる状況にある。日中施錠はしておらず、玄関にセンサーを設置している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地域住民の協力を得て2ユニット合同の避難訓練を実施している。今年は通報・避難に重点を置いた夜間想定訓練を行うなど、災害対策に積極的な取り組みをしている。職員は毎年、消防署で救急救命や応急手当などの講習を受けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食卓には、いつでも水分補給ができるようお茶と水がセットされている。栄養面では定期的に山本組合総合病院の栄養士に献立表を見てもらいアドバイスを受けている。また、ホーム独自で調理実習をしたり、一人ひとりの状態や希望に応じたとろみ食やおかゆ食も提供している。食事と水分の摂取量は毎日記録されている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は高く、四方の窓から自然の光が採れる。居間はゆったりと過ごせるスペースがあるほか、庭園を囲むように造られた廊下も広く、思い思いの場所でソファやベンチに腰をかけ、落ち着いて過ごすことができる。不快な音や匂いもなく、掃除の行き届いた清潔感ある共用空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスは事業所に備え付けのものを利用しているが、利用者一人ひとりの状態に合わせてベッドを変えるなどの対応を行っている。それ以外の布団や家具、写真や日用品などは利用者が使い慣れたものが持ち込まれている。		

は、重点項目。